
ハッピーツリーフレンズ解

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハッピーツリーフレンズ解

【Nコード】

N0819K

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

ハピツリ生誕10周年記念。二次創作ストーリー。パロディもあるよ。

ランピーは、目覚めた。

それは、All frocked upの世界だった。

ランピーは、小鳥が地面にいたのを見た。

そして、思い出した。

「この世界で僕は、右腕がちぎれて死んだことがある。」

今回は、何かが違った。

この世界は、モールとトゥーシーとランピーが登場する話なのだが、

今回は、カドルスとフリッピーとマイムがいた。

「ランピー、小鳥巢から落下していたみたいだよ。」

ランピーは、言った。

「そういえばフリッピー、フリッピーの家に高いところも手が届きやすくする装置があったよね僕の装置だとわからないから。」

フリッピーは、とても性能のいい装置を見つけた。

カドルスとマイムは、ランピーと一緒に乗った。

この世界の観測役を務めた三人であれば、この謎は、楽勝である。

そして、小鳥を巢に返して、無事に戻った三人。

フリッピーは、装置を自分の家に戻した。

しかし、この一方に謎の暗雲が迫ってきた。

十字架と卍が、現れてそして、人物が現れた。

「とうとう、紡いでしまったな。」

「ああ、これ以上紡ぐならあいつを出すか。」

「エクストラゲーム特別拷問を始めようぞ。」

「吾等は、神だ。残酷と悲劇を司る神で罪を操る。そしてもう一人は、仏教魔法の魔術師だ。ハハハハハハハハハハ。」

翌日、雨が激しく降ってみんなは、雨宿りの為に謎の館にやってきた。

其処には、フロッグマンとキッズウィンという支配人がいた。

「雨がとんでもなく降っています。おそらく洪水にならない程度に降り続けることでしょうか、しばらくの間この館に泊ってください。」

シャーベルタイガーがやってきた。

「館の案内は、私がご案内いたします。」

カドルス達は、館を散策して自分達の部屋でくつろいでいた。

ギグルスとペチュニアとフレイキーも楽しそうである。

レインボーニヨロモがやってきた。

「夕食の準備が整いました。食べにいたしてください。」

みんなは、夕食を食べ終えて、ゲームをしていた。

ここに置いてあるのは、トランプとUNOとチェスとオセロだった。

22時28分を差す時計。

みんなは、楽しく寝に入った。

とんでもない惨劇が起こるというのに。

翌日の8時0分。

みんなは、あることに気付いた。

ランピーとフリッピーとフレイキーとマイムとホンコンとペキンがいないことに気付いた。

ルドルスとカドルスは、車庫を見つけた。

リフティとシフティを除く全員で車庫を唾を飲みながら開けた。
非常に残忍な出来事があった。

6人は、共通の死に方をしていた。

アリスは、フレイキーの遺体を見て泣いていた。

トウーシーとカドルスは、ショック顔状態だった。

「いったい、誰がこんなことを。」

二人の神は、このエクストラゲームの開幕に興奮していた。

A l l f r o c k e d u p m a g i c - 1 k i l l i n g s t a r t

次回は、t r a c e moveです。お楽しみに。

残忍な殺され方をされた6人のハピツリ。

フリッピーとフレイキーは涙を流しながら死んでいた。

痛々しい現場は、カドルス達に大きなダメージだった。

館に戻り、カドルスとギグルスとトウーシーとペチュニアとルイは話し合っていた。

「密室ではないけど、殺害方法が曖昧すぎねえか？」

「ルイは、ランピーの遺体は、右腕がなくなっていることだよね？」

トウーシーは、ある推理をしようとしていた。

「ジョーカーの出る確率推理っていう方法だけどね。誰かが恨みがあつて殺したという推理なんだけどペチュニアが怪しいと思うんだ。」

ギグルスは、あることを思い出した。

（ペチュニア貴方は、人殺しとかしないのって不思議だわ。）

ペチュニアは、にっこり笑った顔をしていたことを。

「そういえば、事件後なんか平然とした顔をしていたわ。信じたくはないけど。」

ポップとカブは、リフティとシフティがいらないことに気付いた。

ペチュニアは、ポップと会話をしていた。

「えっ、リフティとシフティがいなくなった!」

ポップの声が小さく驚いていた。

ルドルスは、リフティとシフティが和室で殺されているのを見つけた。

みんなは、カドルスの推理を聴くことを決めた。

「僕の推理は、リバーシ推理だよ。裏返せばいいっていうこと。特に、トゥーシーが言った犯人と同じ犯人が、8人を殺害した。しかも恨み度によって殺し方が違う。ディスコベアーは、知っているけどペチュニアは綺麗好きという一面がありますが、殺人犯に染まることだってあり得ます。」

ペチュニアは、怒りながら言った。

「どうして私が、犯人になるの？ 私には4つもアリバイがあるのに。」

カドルスは少し咳をしてから言った。

「要するに、ペチュニアがさんざん恨んでいつか殺そうと考えているディスコベアーを殺さずにランピー達8人のうち3人は、腕が引き裂かれているのと手首を切断されているのがあった。全員になるが、最後は頭を破壊するぐらいに殺した。ペチュニア、貴方に疑いが掛っています。」

ペチュニアは、カドルスの推理を否定していた。

ハピツリ版となったあるキャラクターは拍手していた。

「カドルスとやら、推理がうまくて妾を喜ばすとはな。」

カドルスは、照れていた。

「しかし、幾つか謎が残るぞ。」

カドルスは、自分の推理を整理していた。

「確かに、何か重要な部分が抜け落ちていたような。」

ギグルスは、ハッと気付いた。

「車庫の6人の遺体に、フレイキー、フリッピーがいてその二人がなぜ殺されたかわね。」

ハピツリ版となったあるキャラクターはハピツリの推理の仕方に感激していた。

「妾の想像を遥かにしのぐ、推理力に感心した。妾は、ここからいったん出る。」

キッズウィンとフログマンとレインボーニョロモは、会議をしていた。

「ペチュニアとポップとスニフルズとモールとクロ・マーモットを殺すということでもまりましたな。」

「牟陀様、今回はレインボーニョロモにお任せを。」

「吾を喜ばす殺し方をしてくれ。」

「承知しました牟陀様。」

怪しげな行動とハピツリ世界の秘密は、まだ暴かれない。

セルインジー・キリストの前に、ハピツリ版のあるキャラクターが現れた。

「お主の名前を言ってくれ。吾は、セルインジー・キリストだ。」

「妾の名は、ベアトリーチエ。」

All frocked Up magic 2 trace move

次回は、decease increaseです。お楽しみに。ハ
ピツリ版のベアトリーチエの登場がさらに場面を狂わす。そして、
新たな推理がラッセルによって導かれる。

A l l f r o c k e d u p m a g i c - 3 d e c a s e i n c r e

- かまをかけられたペチュニアは、自らの推理を出そうとするのだが・
-
-

All frocked up magic - 3 de case incre

ギグルスとカドルスは、ペチュニアにかまをかけたことを後悔している。

カドルスは、ギグルスに言った。

「ペチュニアを犯人だと思わないかも。」

ギグルスは、ペチュニアのことを心配していた。

ラッセルとトゥーシーとポップは、車庫の6人の死体を調べていた。

「何度見てもつらいな。」

ポップは、フレイキーの左手の薬指を見た。

「これって指輪。」

トゥーシーが言った。

「そういえば、フリッピーさんは、フレちゃんと交際の約束をして
いたって聞いたことがある。」

ラッセルは、マイムの首筋と両足の斬られ方に共通する刃物を見つ
けた。

「マイムの殺され方、両足を鉋で切断して、その後、首筋を其の鉋
で切り裂いたんだ。」

ペチュニアは、部屋から出ようとした時、水を浴びた。

「冷たいなもう。誰、こんな悪戯をしたのは。」

レインボーニョロモが現れた。

「貴方の疑いを晴らしてやりましょう。」

「やめて……………」

ペチュニアの部屋の扉が血に染まった。

そして、後の四人も姿を消した。

食堂に集まったみんなは、食堂の机に五人のバラバラ遺体を見つけた。

ルドルスは、ペチュニアの左腕がないことに気付いた。

カブは、お父さんであるポップの死体を見て泣いていた。

ハンディは、推理をした。

「この殺人事件も、おそらくハピツリの中に犯人がいるからだと思う。ペチュニアが犯人と置いていたら、ペチュニアは殺害されているんだ。それに五人がそれぞれ違う場所にいたのにどう見ても死亡推定時刻が五人とも同じ時間に殺されているという不自然なこと。単独犯ではなく、共犯者がいることだ。」

カドルスは、ハンディの推理をあざ笑うかのように否定していた。

「僕の推理は、こうだね。ポップは庭園を見ているときに何者かに殺された。スニフルズは、外で虫を観察している最中に殺された。モールとクロ・マーモットは、二人で休憩室で殺された。ペチュニ

アは、部屋の中で殺された。このことは、知っているが殺した後の遺体の運び方だ。どちらも食堂からは遠すぎる。だったら、何処かに血痕が付くはずだ。しかしついていないこれは、何らかの力によって死亡推定時刻と殺害方法を考える必要だ。」

トウーシーは、なんだか悲しい顔をしていた。

ブディストモンキーとルイは、奇妙な気持ちでいっぱいだった。

「これでは、君も疑うぐらいだ。」

「僕もだけど、ブディストモンキーは人殺しをしないタイプだと信じているよ。」

カブトムシ將軍とクワガタ松竹梅は、外で次に殺す者を決めていた。

「アリスとルドルスとブディストモンキーとナッティーにしよう。」

「俺は、カブとスプレنديドとシャンハイとギグルスにしよう。」

牟陀とセルインジー・キリストとベアトリーチェもやってきた。

「さあ、^{エクストラゲーム}特別拷問の終演の宴を始めろぞ。」

All frocked up magic - 3 de case incre

今回は、crazy itemです。お楽しみに。小説を読んでく
ださっている方にこの謎を解くことを許可します。ポーカー型推理
をするなり、チェス盤をひっくり返すなり好きに解いてください。
ハッピーツリーフレンズ解は、この特別拷問を脱する方法を考えろ
と言っています。ぜひ、謎を解いてみてね。感想ページを回答欄に
しますので疑える部分は、ちょっと写してみてください。どれが
正解かは言いませんので。

A l l f r o c k e d u p m a g i c - 4 c r a z y i t e m (前 書

カドルスの推理に、キッズウインが否定をし始める。

All frocked up magic - 4 crazy item

カドルスは、悩みを解こうとしていた。

アリスとルドルスは、館の支配人の一人、キッズウィンに話しかけていた。

「今回の事件、私たちが犯人だと思うとゾッとするわ。」

「確かに。」

キッズウィンは、カドルスと合流した。

「僕の推理では、次に殺されるの8人だろ。」

「正解だが、君が言った全ての真実は否定する。」

「どういうことだ。」

「知りたいか？」

「教える速く。」

「豪快な真実は、拒否できるのは、僕とフロッグマンのみ。」

そう残してその場を去った。

カドルスは、不穏な空気に眼がくらんでいた。

ギグルスとルイとカドルスは、ペチュニアの部屋に入った。

其処に落ちていたのは、左腕だ。

ギグルスは、大粒の涙を流していた。

「ペチュニアが、殺されたなら、私も殺して！」

カドルスは、ギグルスを落ち着かせようとしていた。

其の晩、厄介な空気が包み込んだ。

そして、この館の浴室に8人の死体があった。

其れを目撃したのは、ラッセルだった。

カドルスとトゥーシーとディスコベアとハンディがやってきた。

「なっ、こんなことがあっていいのかよ。」

事件の真相が、分からなくなったカドルス達。

キッズワインは、フロッグマンに何やら頼みごとがある。

「頼む、トゥーシーとラッセルを殺してくれ。」

「奴等を三人にして、事件の解き方を視てみたいと？」

「そついうことだ。」

「わかった。僕の黒穴の魔法に任せれば二人なんか。」

邪悪な空気が館に漂い始めた。

A l l f r o c k e d u p m a g i c - 4 c r a z y i t e m (後 書

次回は。 s y s t e m b l o o d m a t e です。 お楽しみに

A l l f r o c k e d u p 5 s y s t e m b l o o d m a t e

カドルスの推理が、キッズウィンとフロッグマンに蹴散らされてしまふ。

風呂場は、血の海になっていたことに衝撃を受けているハピツリ達五名。

ハンディとトウシーは、考えていた。

「ハンディは、今回もハピツリ側だと思うの?」

「俺は、そうとも思えない。」

「何で?」

「俺たち以外に、いたよね。キッズウィンとかそういう奴、たぶん彼等が犯人と考えても。」

トウシーとラッセルが話し合っている途中、何かが起こってしまった。

カドルスとデイスコベアーとハンディは、ショックを受けていた。

トウーシーとラッセルの血が飛び散っていた。

トウーシーの生首とラッセルの眼帯だけあり、他の物が消えうせていた。

「ハンディは、やっぱり部外者が殺ったと考えた方がいいよね。ということとは、キッズウィン達が怪しいと思った。」

キッズウィンとフログマンは、牟陀とセルインジー・キリストとベアトリーチェと出会った。

「ようこそお待ちしていました。」

「三人の生贄がいますよ。」

ベアトリーチェとセルインジー・キリストはにやりと不気味な顔をした。

ハッピーツリーフレンズ解、All frocked up magicが終わってしまった。

ハピツリのキャラ達は、まだ謎のままである。

今回は、最初の惨劇は贖えたものの、エクストラゲーム特別拷問の存在は、ただ知らず贖うこともできなかった。これは、悪魔の証明に従ってしまったハピツリ側に何らかの破綻が起きてしまったことも差し述べる事が出来る。

最後に生き残った3人の運命は、カドルスは、腹を抉られて死亡。ハンディは、胸を抉られて死亡。ディスコベアーは、頭を抉られて死亡。ということになってしまった。

この、連続闇幻想殺人事件は明らかになっていない。

ハピツリ四天王の反省会

「ランピーは、いきなり死んじゃったから。」

「僕は、どうしてこうなったのかが知りたいよ。」

「ギグルスとトゥーシーは、どう思う？」

「私は、ペチュニアの死が信じられないわ。」

「僕は、アリスの死がどうもおかしいと思ったよ。だって、殺され方が明らかに魔法でない限り、殺す方法がないよ。」

「次は、必ずこの館で起こった殺人事件を解いてやる。」

お茶会

「妾は、感心したぞ。セルインジー・キリスト。」

「牟陀は、何を喰っている。」

「ポテトチップスだよ。」

「妾は、そのポテトチップスを知っている。健康によく、塩味が濃くなくて美味しいといろんな者達から大評判と言われている。」

「ベ아트、本当に知っていたのかよ。」

「セルインジー・キリスト、妾が情報の一つ二つ逃すことがあると思うのか?。」

「それはないな。」

A l l f r o c k e d u p 5 s y s t e m b l o o d m a t e

次回は、eye candy magic-1 mystery
of deluxeです。お楽しみに

eye candy magical mystery of deluxe

意外な贖われ方と、少し意外な真実。

カドルスとトウーシーとアリスは、棒付きキャンディーを買いに行った。

既に、此の謎は贖いを受けた。

フリッピーは、フレイキーを見ていた。

どうやら、婚約指輪を渡していた。

ディスコベアーは、嫌な空気を視ている。

ギグルスは、外を見ていた。

「何あの、屋敷は。」

ランピー達がやってきた。

此の屋敷の支配人は、カプトムシ將軍、クワガタ松竹梅、キリマンジャロ、キッズウィンである。

しかし、奇妙なことが起こっていた。

セルインジー・キリストと牟陀が屋敷の屋上で、会話をしていた。

「セルインジー・キリスト、そろそろ卍と十字架を重ね合わせる時が来たな。」

「ああ、そのようだ。これより、エクストラゲーム特別拷問の魔法を解き放つ。」

「そのことだが、どうやらハピツリの野郎どもが、あの拷問をあざ笑うかのように避けましたぜ。」

「そうか、ベアトリーチエ。」

「こうなればあいつを召喚だす時が来たようだな。」

「いでよ、新たなる七つの煉獄達よ。」

七つの十字架が野原に刺さった。

十字架の中から、七人の人物が現れた。

カドルスとルドルスは、楽しそうな顔だった。

夕食を食べた後、分担行動をした。

セルインジー・キリストの前に7人のハピツリメンバーが謝罪と懺悔をした。

「僕達は、決してあなたの気にされるような悪いことはしていません。」

「吾の、十字架は、運命解読のせいで振動がなくなっているんだ。」

「だったら、僕達を生贄にしてください。」

「バカバカしい者達だな。お前ら以外の5名を生贄にしてやる。」

「恐怖に慄け！」

そして朝になった。

ギグルスとランピーとカドルスとアリスは、トウーシーを起こしに部屋に入った。

アリスが、泣いていた。

ランピーとギグルスとカドルスは、静かに息を飲んでいた。

トウーシーの死体は、両目を抉られて、口の中に棒付きキャンディーが刺さっていた。

「ラッセルとルドルスの姿がありません。」

ペキンがそう言った。

eye candy magical mystery of deluxe

次回は、eye candy magical 2 tornado
mission S adです。お楽しみに

e y e c a n d y m a g i c 2 t o r n a d o m i s s i o n

遺体が4体現れた。そしてカドルスの推理が始まる。そしてルイとブデイストモンキーに悲劇が。

ラッセルとルドルスの死体は、中庭にあった。

首筋を刃物のようなもので切りつけられていた。

次に見つかった2体の死体は、ナッティとスプレンドイドだった。

どうやら、胸を抉られていた。

カドルスは、少しだけ考えていた。

「変だよな何で、殺された5人の死亡推定時刻が同じなんだ？」

スニフルズが言っていた。

それは、謎である。

カドルスは、すごい推理をした。

「一発勝負推理を試みたよ。これならいける。犯人は五人いて、その犯人は、死亡推定時刻の時、一斉に五人を殺した。考えた結果、五人は、ハピツリ側ではないと推測しています。」

支配人は、4人。

考えられないことがあった。

ブディストモンキーとルイは一緒に考えていた。

「支配人に、5人目がいるとは考えられない。」

「支配人は、5人いるとは考えにくいですね。」

ペチュニアとリフティとシフティは、ブディストモンキーとルイの死体を見つけた。

「これは、いったいどういうことだ。」

「ひどい有様だわ。」

「みんなに言いに行くけどいいか？」

「良いぜ。」

シフティは、みんなを呼び寄せた。

ギグルスとランピーは、少し悲しい顔をしていた。

e y e c a n d y m a g i c 2 t o r n a d o m i s s i o n

次回は、e y e c a n d y m a g i c - 3 c a n d y m o
veです。お楽しみに。

eye candy magical candy move (前書き)

一つの犯人像が、浮かぶ前にそいつが、何かの事件に巻き込まれる。

eye candy magical 3 candy move

5人の死体の特徴は、次第にとある確信に近づこうとしていた。

トウシーとラッセルとスプレンドイドとナッティーとルドルスの5人の殺害され方が、変ではなかった。

そして、シフティ達がやってきて、見ていたのは、ルイとブデイストモンキーの遺体であった。

「こんなひどいことってあるかよ。」

カドルスは、妙なことに気が付いた。

其れは、犯人が身近にいる可能性があることである。

ギグルスとランピーは、疑いのかまをかけられた。

「私が、その7人を殺すなんて有り得ないわ。」

「僕だってそうだよ。きちんとアリバイがあるのに。」

ハンディは、2人の事を信じてはいなかった。

二人は、ある事に気付いた。

「犯人は、ハンディかしら？」

「絶対そうだ。支配人は、あくまで4人とくれば、犯人の特定が難しい。」

ハンディは、キリマンジャロと一緒に隠し部屋に移動した。

しばらく時間が経過した。

ギグルスは、車庫が開いていることに気付き、その場を見た。

「キャー、ハンディーが、死んでいる。」

クワガタ松竹梅とカブトムシ將軍は、リフティとスニフルツズの遺体を見ていた。

フレイキーとフリッピーは、嫌な気分になっていた。

「セルインジー・キリスト様が、来てしまった。」

「吾が来たのは、君たちではない。モールとシフティとディスコベアを探しに来た。」

e y e c a n d y m a g i c 3 c a n d y m o v e (後書き)

次回は、e y e c a n d y m a g i c - 4 A l l t i m e
o u tです。お楽しみに

e y e c a n d y m a g i c - 4 A l l t i m e o u t (前書き)

頭を悩ませるカドルス達にさらなる連続猟奇殺人事件が起こる。

カドルスとギグルスとランピーは、推理に悪戦苦闘していた。

「このまま、事件を解決しなければ、僕達もいずれ巻き込まれる。」

フレイキーとアリスは、シャンハイとホンコンとペキンと出会った。

「恐ろしい事件があり過ぎないか？」

その後、ペチユニアは、青色をより青くなっていた。

カドルス達が駆け付けた時、ペチユニアはいなかった。

「モールとシフティとディスコベアが死んでいるよ。」

ホンコンが調べた。

「変死です。しかも泡を吹いて死ぬということは、かなりまずいことになりましたよ。」

アリスとペキンとマイムは、駈けだして外に出た途端、ペチュニアの首を見つけてアリスが大声で恐怖の叫びをあげた。

みんなは、ペチュニアの首を触ることが出来なかった。

血文字で何か書いてあった。

カドルスが読み上げた。

「館のお庭から出ることはできない。そして支配人にはなんも事件性がない。第三者の侵入は有り得るがそれが何者なのかは分からない。」

カドルスは、一つだけ疑問に思った。

「第三者って誰なのかな？」

e y e c a n d y m a g i c - 4 A l l t i m e o u t (後書き)

次回、e y e c a n d y m a g i c - 5 a t t a c k s t
r i k e m a t e です。お楽しみに

e y e c a n d y m a g i c | 5 a t t a c k s t r i k e m a t

第三者とは、いったい誰なのか？

カドルスは、外で血文字の謎を解き明かそうとしていた。

アリスとホンコンとフレイキーとフリッピーもいた。

「第三者、どういうことなんだこれは？」

ギグルスは、屋敷の扉を開けようとしたが、施錠されている。

「開かないわ。第三者は入れそうにない。」

牟陀が彼等の前に姿を現した。

「仏教魔法が教える真実を視るがよい。」

スニフルツズの遺体とリフティの遺体である。

「此の二人も殺害されていたのかよ！」

牟陀は、次の生贄を指定したカードを空中に浮かせた。

ペキンとランピーとアリスとフレイキーとシャンハイが映っていた。

カドルスは、一つ気付いた。

「これは、やばいぞ。屋敷に逃げろ。」

屋敷で幾つかに分かれたハピツリ達だが、シャンハイに十字架の槍が近づいていた。

フレイキーとランピーには、キリマンジャロに追われていた。

アリスは、ペキンと遭遇した途端、卍が蝶に変わり、蝶はナイフに変わった。

カドルスとフリッピーとホンコンとマイムとギグルスは、シャンハイを見つけた。

十字架の槍が胸を抉っていた。

キリマンジャロは、キッズウィンにマイムとホンコンを連れさうように命令して、気が付いていないときにさらった。

フリッピーは、息をのんだ。

フレイキーとランピーの死因は、首を刃物のような鋭い物によって頸動脈を切り裂かれていることである。

次に、アリスとペキンとマイムとホンコンの死体を見つけた。

様々な死因があった。

アリスとペキンは、他殺。

マイムは、絞殺。

ホンコンは、自殺。

である。ただし、セルインジー・キリストや牟陀や支配人やベアトリッチェでも殺害が不可能である。

カドルスとフリッピーとギグルスは、苦しい気持ちである。

仏教魔法を利用して第三者を探している牟陀は、奇妙なことに気付いた。

「お前は、誰だ！」

「私は、ラミーです。」

しかし、すぐに自己紹介したとたん、もうひとつの第三者にラミーの首と額を槍が刺さって死んでしまった。

「破壊を司る、シンシェニウスです。」

セルインジー・キリストがやってきた。

「第三者の殺害、ご苦労だったシンシェニウス。」

「仰せの通りに首と額を槍で決りて殺せを実行完了しましたセルインジー・キリスト様。」

「ふんつ。」

eye candy magic 5 attack strike mat

今回は、eye candy magic-6 final candy mate。お楽しみに。

というより、第三者がハピツリの新キャラであること。次回のゲームの題名は

Icy You magicです。

eye candy magic - 6 final candy mate 前

eye candy magic 終了。いびつに曲がってさらなる
謎が現れる。

カドルスとフリッピーとギグルスは、三人で三つに分かれて、犯人の動きを狂わせようとしたが、セルインジー・キリストは、十字架の鏡は3人を見ていた。

牟陀は、ある者に言った。

「了解しました。あの三人を殺害して見せます。」

その者は、すぐに黄金の卍に変わって消えた。

フリッピーは、黄金の卍から変わった人物を見た。

「誰っ！」

「冷酷のチンパーラ、これよりあたいは、フリッピーを冷酷な殺し方で死なせてやるわ。」

「やめろー！」

廊下のそこらじゅうにフリッピーの血が飛び散った。

ギグルスとカドルスは、両手両足を縛られていた。

ギグルスの腹から十字架が出てきた。

カドルスは、仰天した顔をしていた。

セルインジー・キリストは、カドルスに言った。

「お前の推理では解明できない真実がもう幾つか出ているぞ。」

「だったら、最後の推理を聴け！」

「良いだろう聞いてやる。」

「最初に起きた殺人事件からずっとセルインジー・キリスト側だつて分かったんだよ。」

セルインジー・キリストは、赤で否定をした。

「この殺人事件の犯人は、ラミーの相棒だ。」

カドルスは驚いていた。

このゲームは、終結した。

I c y Y o u M a g i cの前に牟陀とセルインジー・キリストとベアトリーチェは何か会議をしていた。

「この戦い、最初は妾がやるのか？」

「まあ、これまではセルインジー・キリストがやっていたからな。」

「モコート・ディセステシア・ヴァンスー・フライング・フライを支配人してみては？」

牟陀がそう言った。

「ならニョロトリオで仕上げるのはどうでしょう。」

セルインジー・キリストは言った。

「モコートなんかにも家具がいたな。」

ベアトリーチェが言った通り、モコには、家具がいる。

その中でも妖怪の一つで斑の力を持つ家具、マスター・ヴェルとは縁のあるものである。

はたして、次回にどんな展望が待っているのか？

eye candy magic - 6 final candy mate (後

次回は、Icy You magic - 1 rule suppl
ement。お楽しみに

I c y Y o u m a g i c - 1 r u l e s u p p l e m e n t (前書き)

衝撃の第三章。今回からカドルスの推理がある人物と対話される設定が誕生します。

Icy You magic - 1 rule supplement

「俺がいない時、第一章と第二章は、二人の神と黄金の魔女が無数の殺人を起こしていたとは、ならば俺がハピツリ側について闘うぜ。」

ナツティーとトゥーシーとギグルスとペキンは、コンビニエンスストアでアイスクリームを購入していた。

ナツティーは、ある惨劇のことを知っている為、お金をきちんと持ってきている。

カブとポップは、ある人物を見ていた。

「十字架と卍を重ね合わせ、エクストラステージ特別拷問の儀式を始めようぞ。」

セルインジー・キリストと牟陀は、謎の館の食堂で始めた。

次の日、天気はあいにく大雨であった。

謎の館に全員が遭遇した。

支配人は、4人。

モコ、ニヨロトリオである。

ルドルスとカドルスは、ある人物を見た。

「君の名前は、何？」

「右代宮戦人だ。」

戦人は、赤色の狼になっていた。

セルインジー・キリストの前にベアトリーチエが現れた。

「戦人が来たぞ。セルインジー・キリスト、此処からどう出るのか教えてくれ。」

セルインジー・キリストは、苦笑いをしていた。

ラッセル達は、食堂で豪華なご飯を食べていた。

牟陀は、セルインジー・キリストの家具を呼び出した。

「薬物のアヴリテリエン此処に。」

「絶望のダークソウル此処に。」

牟陀は、卍を渡した。

「これを利用して、ナッティー、ランピー、ペキン、ホンコン、スニフルズ、ブディストモンキーの6人を殺せ。多彩な方法でな！」

「了解しました牟陀様。」

ここで、時を止めてカドルスと戦人とセルインジー・キリストの推理対決が始まった。

「今回の茶番は、責めることが難しいぞ。」

「だったら、推理してやるよ。嫌というまで。」

そしてこの日の夜、ブディストモンキーは、ダークソウルと闘っていた。

しかし、ブディストモンキーの胸に刃が当たって死んでいった。

そして、次の日の朝、ナッティー、ランピー、ペキン、ホンコン、スニフルツズ、ブディストモンキーが、3階客室で遺体となって見つかった。

戦人は、あることを言った。

「ナッティーは、顔が半分なくなっていて、ランピーの舌がぐるぐる巻きにされて死んでいる。これは酷過ぎる。」

カドルスは、悲しい顔をしていた。

セルインジー・キリストは、ニョロトリオに何かを言い付けた。

「スプレندیッドとクロ・マーモットを殺せ。」

この後、どうなるのか楽しみだ。

I c y Y o u m a g i c - 1 r u l e s u p p l e m e n t (後書き)

次回、I c y Y o u m a g i c - 2 W i s d o m S h o
c k。お楽しみに

I c y Y o u m a g i c - 2 W i s d o m S h o c k (前書き)

第三の犠牲者に、新たな進展が見えた。

Icy You Magic-2 Wisdom Shock

ギグルスは、ナッティの死体が気になって見ていた。

他の5名にも謎の共通点があった。

「此の死体に、ICY Youの惨劇と似た方法での殺害。」

カドルスは、モールに言った。

「此の殺し方は、この部屋に入ってきたものということになるのかな？」

「私もそれに考えが入りますね。」

一方、スプレンドイドとクロ・マーモットは、三人の支配人を見つめた。

「言っとくけど、この場所から逃げることは出来ないニョ！」

スプレンドイドは、ビームで攻撃したが、ニョロトリオは、さっと

避けた。

「水の力をフルバースト状態OK、水の力をフルパワー状態OK、水の力をフルショットモードOK。さあ行くぜ、目標補足、二ヨロモが三匹揃うとどうなるのかってこんな巨大な弓矢が出来るんだよ。ブラストキャノン！」

クロ・マーモットの腹から血が噴き出した。

「やばい、このままでは・・・」

スプレندیドは、胸を貫通されて死んだ。

そして、2名の遺体をルイとルドルスが発見した。

此处で、時を止めて推理対決が始まった。

カドルスは、此の事件の犯人を言った。

「此の事件、支配人が全員グルで、8人を全員殺していったそういうことだセルインジー・キリスト！」

セルインジー・キリストは、赤で否定をした。

「8人を殺した犯人は、ハピツリ側でも支配人側でもない。」

戦人は、セルインジー・キリストの赤の真実をチェス盤をひっくり返して推理した。

「カドルスから聞いたぜ。前のゲームでは、ラミーというキャラクターの相棒が犯人であることを告げていた。つまり、今回は、支配人の一人、モコという者が犯人だ。」

牟陀が、卍の真実で否定した。

「モコでも、支配人でもハピツリ側でも犯行は不可能です。」

「なにっ！」

牟陀とセルインジー・キリストは、嘲笑う様にして卍と十字架の中に入って消えた。

時が再び動いた。

カドルス達は、自分達の部屋で待機することを決めた。

この惨劇の謎が、分からないままであるからである。

フリッピーとフレイキーとアリスとトウーシーとカドルスとギグルスとペチュニアとハンディと戦人は、外に出て、地下1階に下りた時、あるものを見つけた。

ギグルスは、第十一の晩にと書いてあるところしか読めなかった。

「第十一の晩に、右手首を抉りて殺せ。」

此処で時が止まった。

戦人は、此の事に気付いた。

「まさか、復活の儀式か？」

セルインジー・キリストは、赤で真実を明かした。

「これは、復活という物ではなく、あるものを召喚させる為の十字架と卍の契約の儀式。」

牟陀は「ベアトリーチエの復活の儀式と似てはいますが、この儀式は、ダークナイト・オシリスをお呼びするものであります。」

時が動いた。

カドルス達が地下1階にいた時、悲鳴が聞こえた。

カドルス達は、食堂に向かった。

マイムとリフティとシフティとラッセルの遺体がいた。

フレイキーとアリスは、口を押さえた。

フリッピーが見た。

「マイムは、額に杭が刺さっている、リフティは、首に杭が刺さっている、シフティは、胸に杭が刺さっている、ラッセルは、腹に杭が刺さっている。これってどういうことなんだろう?」

カドルスは、モコを見た。

「第三の犠牲者たちが出てしまった。」

トウーシーは、そういう風に言った。

I c y Y o u m a g i c - 2 W i s d o m S h o c k (後書き)

次回は、I c y Y o u M a g i c - 3 b i g k i l l I
c y。お楽しみに

I c y Y o u M a g i c - 3 b i g k i l l I c y (前書き)

一部の真相が見え始める。

I c y Y o u M a g i c - 3 b i g k i l l I c y

トウーシーは、第三の犠牲者が出たと言った。

此处で時を止め、推理対決を視よう。

「ということは、膝、足、左手首、右手首×2ということか。」

戦人は、言ったがセルインジー・キリストは、その後の真実を明かした。

「ダークナイト・オシリスをお呼びする為の扉は生き残りの者達の血で塗りつぶせば開く仕組みになっています。」

カドルスは、生き残りの者たちという部分で疑問を抱いた。

杓陀は、セルインジー・キリストと一緒に紅茶を飲んだ後、時を動かした。

トウーシーは、ディスコベアと会話していた。

「確かに、俺も思うぜ。此の屋敷に変な魔法がかかっていることは確かだ。」

ディスコベアの答えは、確かにあっているものだ。

カブとポップとシャンハイとモールは、セルインジー・キリストに会ってしまった。

「吾に出会ってしまったか、だったら、儀式の準備を始めるか。さあ、モコ出て来い！」

「どうしましたか、セルインジー・キリスト様。」

「お主の家具で、彼ら四人を殺せ。そして、吾は、モールの膝、ポップの足、カブの左手首、シャンハイの右手首を杭で刺す。」

「我が誠実なる家具の一人、マスター・ヴェルいだよ！」

この意味不明な世界をチェックメイト出来るのはどっちだ？

I c y Y o u M a g i c - 3 b i g k i l l I c y (後書き)

次回は、I c y Y o u M a g i c - 4 F i r m D i f f
i c u l t y M o v e。お楽しみに

I c y Y o u M a g i c - 4 F i r m D i f f i c u l t y M o v

マスター・ヴェルの破壊力は、恐ろしい物であった。

マスター・ヴェルが現れた。

「モコート・ディセスティア・ヴァンスー・フライング・フライ様、どうしましたか？」

「モールとポップとカブとシャンハイを殺せという命令だ。」

「承知しました。では、その任務にお答えしましょう。」

ポップとカブは、逃げようとしたがマスター・ヴェルはとても素早く、斑の槍で首をそぎ落とした。

シャンハイは、恐怖に驚いていた。

マスター・ヴェルは、斑の銃でシャンハイの胸を撃ち殺した。

モールは、状況を知らないまま逃げようとしたところをマスター・ヴェルは、斑のナイフで腹と胸を一撃、そしてモールまでも死んだ。

車庫にはカギがかかっていることにルドルスは、気が付き、カギを取りに支配人に行った。

「これです。」

車庫のカギを開けてルドルスは、車庫を開けた途端、ポップとカブとシャンハイとモールの遺体を発見して、驚いていた。

支配人達は、急いでハピツリ達を呼び出した。

その間にルドルスは、悲劇に襲われた。

推理対決を開始する。

「カドルスの推理、五人を殺した犯人は、モコである。」

「セルインジー・キリストは、赤で否定をした。此の殺害構築は、ラミーが行ったものである。」

「また否定かよ!」

「ややこしい神達だ、全く。」

セルインジー・キリストと牟陀は、苦笑いをしていた。

本場に戻る。

カドルス達は、五人の死体をみて苦しい思いをしていた。

今、生き残っているハピツリメンバーは、カドルス、ギグルス、トウーシー、フリッピー、フレイキー、アリス、ペチュニア、ハンデイ、ルイ、ディスコベア、戦人である。

牟陀は、セルインジー・キリストに言った。

「第十一の晩まで終わってしまいましたね。」

「第十二の晩は、ダークナイト・オシリスの為にブラッドレッドカーペットを作る為、生き残った者たちを殺していけ。」

「妾は、退屈しなかったぞ。セルインジー・キリスト、妾が次に殺す者を指名してもいいか。」

「別にかまわない。」

「アリス、フリッピー、ディスコベア、ルイ、トウーシー、ギグルスだ。」

アリスとフリッピーは、ある事を話していた。

「フリッピーさん、お姉さんとはうまくやっていますか？」

「まあ、うまくいつてるよ。何だ？」

突然、アリスとフリッピーの頭上にコウモリが現れた。

「この屋敷、コウモリでも飼っているのか？」

扉から、牟陀が現れた。

「フリッピーとアリスか。ちょうどいい仏教魔法の荒技を実践してみたかったんだ。」

一方、食堂では、ディスコベアとトウーシーとギグルスのところに

ベアトリーチエが現れた。

ルイは、屋上にいた。

ニヨロトリオが、ルイを屋上から突き落とした。

こうして生き残ったのは、カドルスとフレイキーとペチュニアと戦人となった。

推理対決が始まった。

「ちょっと待て、手が早すぎる。」

「そうだが。このままではチェスというフルズメイトになるぞ。」

セルインジー・キリストは、赤で新たなルールを述べた。

「支配人も後に死んでいく。」

「どういうことだ。それは？」

「ニヨロトリオとモコがいますが、次の生贄になる可能性があります。」

推理対決は、此处で終結。

本場での描写をお楽しみください。

I c y Y o u M a g i c - 4 F i r m D i f f i c u l t y M o v

次回は、I c y Y o u M a g i c - 5 W e d e a d m a
t e。お楽しみに

此の次は、s p a r e m e M a g i c になります。

I c y Y o u M a g i c - 5 W e d e a d m a t e (前書き)

推理勝負が結構多い。

I c y Y o u M a g i c - 5 W e d e a d m a t e

ニヨロトリオは、あるものを取り出した。

それは、黄金であつた。

「モコ、お前さんはこれを持って逃げなさい。」

「分かりました。」

完全に、フレイキーは、嫌な顔をしていた。

ペチュニアは、フレイキーを慰めていた。

戦人の前に、2億7万年後のトウダイグサが黄金の蝶から現れた。

「人間ってこんなトリックに弱いんだー！」

「っってお前誰なんだよ！」

「人間に代わって植物が2億7万年後に第2の支配者になった。」

トウダイグサは、赤の真実で語った。

戦人は、トウダイグサをよく見た。

「おまえって、指が7本もあるのか？」

「人類よりも、植物は頭脳明晰になりやすい為、それに対応できる進化の道を選んだ。」

この言葉も赤である。

推理対決が始まった。

「おいつ、ベアト。トウダイグサというやつは一体何なんだ。指は7本もあるし、人類よりも賢くなっているなんてわけが分からねえーよ！」

「妾も分からない。勝手に現れた。」

トウダイグサが現れた。

「俺の存在を否定することはできない。黄金の植物と呼んでいたたければさしつかえないと思います。」

本場に戻った。

ベアトリーチェの前に、トウダイグサが出てきた。

「黄金の植物、トウダイグサ。」

トウダイグサは、2億7万年後の自分の種の名を言った。

「ベアトリーチェ、俺の名は、トウダイプルス・クローゼ・ディヒューマンサウルス！モコが逃げた代わりにお前を消す。家具達よ残り者には福がある。」

ニシキアカリファ、パラゴムノキ、キャッサバ、ナンヨウサクラ、ハナコミカンボクが現れた。しかも遠い未来世界の植物である。

「七七七の聿よ。目標を定め目標を八チの巢にしたまえ。」

ベアトリーチェは、モコの代わりに殺されてしまった。

ニシキアカリファは、ニョロトリオを見つけた。

「水の力をパワーアップ！目標補足、ブラストキャノン発射！」

ニシキアカリファは、ニョロトリオのブラストキャノンを結界で打ち砕いた。

「なに、効かない！」

ニシキアカリファは、ニョロトリオを襲ったと同時にゲームは終了した。

「ダークナイト・オシリス様、ようこそいらっしやいました。」

セルインジー・キリストは、そう言った。

この推理に矛盾が出来てしまった事は確かである。

今回の推理には、ラミーも加わり戦いが始まる。

I c y Y o u M a g i c 終了。

次回予告

「カドルスだよ。ハッピーツリーフレンズも10周年だけど、この推理物語は、未熟状態なのかない加減、犯人を出しやがれという物。」

「焦ったらだめですよ。カドルスさん。」

「あつ、フレちゃんか。でも次の話は大変なことになっていくみたいだな。」

「ラミーとは、別の人物も参戦するみたいなんです。」

「へえー誰なんだろう。」

「それは、右代宮……。」

「フレちゃん、それは次回のお楽しみだよ。」

次回 spare me Magic - 1 queen sear
ch

「フリッピーさん、チェスの駒を一個見失ったみたいですう。」

「うー、それは大変だ。」

I c y Y o u M a g i c - 5 W e d e a d m a t e (後書き)

次回もお楽しみに。

s p a r e m e M a g i c - 1 q u e e n s e a r c h (前書き)

遂に明らかになる。ダークナイト・オシリスの呼び出し儀式。そして、神及び魔女側に刺客が乱入する。どう推理すればチエックメイ
トとなるのか？

s p a r e m e M a g i c - 1 q u e e n s e a r c h

ボウリングをしてから、帰ってきた。スニフルツズとハンディとモ
ールとペキンとカドルスとフレイキーは、楽しそうな表情であった。
またしても運命を贖われてしまった。

セルインジー・キリストとベアトリーチェは、ある事を思いついた。

杓陀を呼び出して、ある方法を使用した。

「エクストラゲーム特別拷問を始めようぞ。」

しかし、神及び魔女側にとんでもない軍団が現れた。

「その特別拷問とやら、吾々が引き継ぐぜ!」

黄金の植物、トウダイグサとその仲間である。

キング タカトウダイ

クイーン ナットウダイ

ルーク ニシキソウ

ルーク ヤマヒナツ

ビショップ ヤンバルアカメガシワ

ナイト リュウキュウタイゲキ

ポーン グミモドキ

黄金の植物 トウダイグサ

という厄介な軍団である。

次の日、謎の屋敷にみんながやってきた。

「古そうな屋敷ね。」

ラミーは、そう言った。

右代宮楼座と右代宮真里亚と右代宮戦人もやってきた。

此の屋敷には、一つだけ謎の出来事が起こっていた。

チェスの駒の一つ、クイーンが行方不明になっている。

支配人は、4人。

レインボーニヨロモ、シャーベルタイガー、キリマンジャロ、キツズウィン。

支配人と右代宮とハピツリ側は、地下一階に下りた。

そして、クイーンを見つけた。

カドルス達が見たのは、謎の儀式書であった。

ゲーム盤の外では、儀式書のことを言った。

「第一の晩から第十二の晩まであるのか？」

昶陀が真実を言った。

「これから行われるダークナイト・オシリスのお呼び出し儀式の生贄の儀式書です。」

「ということは、ダークナイト・オシリスというやつを呼び出す前に、この儀式をぶっ壊せばいいんだな。」

セルインジー・キリストは、納得していた。

「人間は、いろいろと考えているとは。」

突然、植物側の代表が現れた。

「トウダイグサ、貴様か！」

トウダイグサは、最強の自然の真実を告げた。

「この儀式は、ダークナイト・オシリスをお呼びするだけでなく、自然の魔力を復活させる儀式でもある。」

戦人は、真実の色を見て驚いていた。

「なっ、緑色だと！」

ゲーム盤内では、クイーンを見つけ、さらには儀式書まで発見したことに少し嫌な気分が漂っていた。

ナットウダイは、トウダイグサと話し合っていた。

「第一の晩を全てナットウダイに任せるぞ。」

「ありがとうございます。トウダイグサ様。」

ナットウダイは、黄金の蝶となって消えた。

トウダイグサは、ニヤリとした表情をしてから黄金の蝶となって消えた。

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ナットウダイは、屋敷に侵入した。

「私の力を見せてやる。」

黄金の蔦になり、屋敷のあちこちを動き始めた。

そして、ハンディのいる部屋に入ってきた。

次の日、浴室に6人の遺体があった。

「ハンディ、スニフルツズ、モール、ペキン、ルイ、クロ・マーモットが死んでいるなんて、くそっ！」

ペチュニアは、涙を流していた。

「ハンディ、なんで何があったの？言つてよ！」

ペチュニアの声は、ナットウダイに届いた。

「奴等は、恋人だったのか。面白いぞ全く。」

ギグルスは、ペチュニアと一緒にいた。フリッピーとフレイキーとアリスとトウーシーもペチュニアの部屋にいた。

「ハンディが殺されたのなら、一体誰が犯人なんだろう？」

真里亜と楼座とランピーとルドルスとキッズウィンは、三階のゲス

トハウスでU.N.Oをしながら、六人の殺害事件に関して話し合っていたが、全くかみ合わない。

急がないと第二の晩が始まるというのに。

セルインジー・キリストは、先を越されてイライラしていた。

トウダイグサは、第二の晩をルークの称号を持つトウダイグサ科を呼び出した。

次回予告

「タカトウダイです。出番はこれからですが、頑張ってみたいと思っています。」

「というより、お前らの出番は、吾が取る。」

「黙れ、セルインジー・キリスト!」

「トウダイグサ、貴方の戦いの場ではないよ。」

「五月蠅い！」

次回 spare me Magic - 2 double room
k motion

「第二の晩は、俺が。第三の晩は、お前らつてどつだ。」

「嫌だね！」

s p a r e m e M a g i c - 1 q u e e n s e a r c h (後書き)

トウダイグサって嫌な駒を持っている。

s p a r e m e M a g i c - 2 d o u b l e r o o k m o t i o n

トウダイグサ率いる軍団の猛攻撃が始まる。

ルークの称号を持つ、トウダイグサ科の植物、ニシキソウとヤマヒナツを呼び出した。

「どうしたか、偉大なるトウダイグサ様。」

「ニシキソウとヤマヒナツ、第二の晩の生贄を殺す準備をしたまえ。」

「

「不甲斐のない、二人の生贄を自由に選ぶがよい。」

タカトウダイが生き残りのタロットカードを出した。

ヤマヒナツは、カブを。

ニシキソウは、ナツティーにした。

「よしっ、2時間後に実行だ。その間にジャパネットただかのCMだ。えっ流れない。小説だから流れません。それを先に言えーこのピーが。」

トウダイグサの無駄言葉は、ほっという本場に戻る。

セルインジー・キリストは、第三の晩を妨害しようと考えていた。

ベアトリーチェの作戦は、うまくいくのか？

カドルス達は、其々の部屋で寝ることを決めた。

カブとナッティーは、ルークの二人を見ていた。

ヤマヒナツは、カブの髪の毛を引っ張った。

「私は、ヤマヒナツ。」

「俺は、ニシキソウ。」

そして翌日、今度は車庫で二人の遺体をレインボーニヨロモが見た。

ギグルスとトウーシーは、ナッティーとカブの死に方が変だと言った。

ゲーム盤の外では……

「ベアトリーチエ、此処までの殺人事件に疑問がある。」

「トウダイグサのせいだ。あいつが妾の邪魔をした。」

「セルインジー・キリストに復唱要求！未来から来たトウダイグサは、本当に未来から来たのか？」

セルインジー・キリストは、赤文字で言った。

「トウダイグサは、未来世界から来た。」

ゲーム盤内では……

キッズウィンが第三の晩に選ばれてしまった。

「僕を第三の晩に選んだな。セルインジー・キリスト！」

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

「ああ、そうだ選んだ。」

「どうしてだ。」

「消えた方がいい。」

セルインジー・キリストの十字架の杭がキッズウインの額に刺さった。

この事をトウダイグサが見てしまった。

そして、黄金の蔦になってベアトリーチェのところにやってきた。

「実に愚かな行為をしましたねベアトリーチェ。」

「トウダイグサ、これはお前の儀式ではない。」

「グワァハハハハハハハ。四つ前の先代ベアトリーチェ様。地球

が壊れてから初めて男性がベアトリーチェの称号を持つ事が出来たんだよ。」

左腕に片翼の鷲が、存在している。

右腕には、殺沢仁柢體の紋章が刻まれている。

トウーシーは、魔法を信じた時、「聖炎」が生まれた。

「やったー魔法は本当にあるんだ。」

戦人は、心配しているのは、第四の晩であった。

ベアトリーチェとトウダイグサは、にらみ合いをしていた。

「二つの塔、ふんっどうせ四つ子の塔だろ。」

「ちっ、ばれていたか。」

「植物を創造した神よ、吾に神のバズーカを与えたまえ。」

「なにつ！」

次回予告

「みんな、カドルスだよ。いやーなんかね、意味不明な世界が起こり過ぎて困るんだよ。腹立つと思わないでね。このお話の謎は、まだまだ続くよ。」

「ペチュニアとアリスがいなくなったらどうしよう？」

「トウーシー、大丈夫だよ。」

次回 spare me Magic 3 quick bis
hop

「どんな展開なるのか、楽しみに。」

s p a r e m e M a g i c - 2 d o u b l e r o o k m o t i o n

次回もまた見てね。

s p a r e m e M a g i c 3 q u i c k b i s h o p (前書き)

戦闘シーンの行方は・・・

s p a r e m e M a g i c 3 q u i c k b i s h o p

「植物を創造した神よ、吾に神のバズーカを与えたまえ。」

トウダイグサは、バズーカをベアトリーチエに向かって発砲した。

魔法のバリアを一発でぶち破った。

「ベアトリーチエを一発で吹き飛ばすとは・・・」

セルインジー・キリストは、啞然としていた。

「くっ、妾を超える力は、まさか！」

「俺は、黄金と無限と究極と永遠と公害と自然と再生の魔法大系を持つスズフリバナの黄金魔術師だ！」

トウダイグサは、ベアトリーチエに向かって罵声を上げた。

「ベアトリーチエ、御前の無限の魔法は、俺には通用しない。俺の無限の魔法で蹴倒してやるから覚悟するんだな。ハーハッハッハッ

ハハハ！」

カドルスは、生き残った者たちを集めた。

「カドルス、ギグルス、トゥーシー、ランピー、フリッピー、デイスコベアー、ポップ、ペチュニア、スプレンドイド、フレイキー、マイム、リフティ、シフティ、ラッセル、ブディストモンキー、ルドルス、アリス、ホンコン、シャンハイ、ラミー、レインボーニョロモ、シャーベルタイガー、キリマンジャロ、真里亜、楼座、戦人ということになる。魔女及び神が次に生贄にするのは、誰なんだろう？」

トウダイグサは、ビショップとナイトとポーンを呼び出した。

「ヤンバルアカメガシワ、リュウキュウタイゲキ、グミモドキ。第四から第六の晩の実行をお願いする。」

「トウダイグサ様、ベアトリーチェがまた勝手な行動をとつたらどうしますか？」

「心配するな、タカトウダイ、監視をしてくれ。」

「了解しましたトウダイグサ様。」

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ポップと楼座は、ある会話をしていた。

「真里亜ちゃんに言っという方がいいのでは？」

「真里亜に、言ったらショックを受けるわ。だってベアトリーチェがベアトリーチェに捕虜にされているって言ったら。」

「確かに。」

ベアトリーチェが黄金の蔦で作られた檻に閉じ込められていた。

「ベアト、なんでそこにいるの？」

「真里亜、来るな！来たら駄目だ！」

リュウキュウタイゲキが、真里亜の右腕と首を削ぎ落とした。

そして、トウダイグサが現れ、真里亜の胸に杭を刺した。

「4つ前のベアトリーチェ、目標の罠に役立って感謝する。」

黄金の蝶になり、消えた。

ポップと楼座は、ベアトリーチェが捕まっている姿を見た。

「やっぱり、捕まっていたの。」

「すまない、楼座。真里亜を魔法で助けることが出来なかった。」

ポップは、叫んだ。

「まずい、罠だ！」

ヤンバルアカメガシワとグミモドキは、杭を持っていた。

楼座とポップは、逃げたが、楼座は首に杭を、ポップには原に杭が刺さっていた。

生き残った者は、23名。

トウダイグサは、キングとクイーンを呼び出した。

「タカトウダイ、ナツトウダイよ。第七の晩と第八の晩を少し時間が経過してから行ってもらいたい。」

「トウダイグサ様のご命令なら50分後で宜しいでしょうか？」

「ならばそうしてくれ。」

ゲーム盤の外では、トウダイグサが告げた自然の真実に戦人とベアトリーチェは、怖がり始めていた。

「どうした、戦人！自然の真実を否定する言を述べないのか？」

「くっ、復唱要求の内容が出てこない。」

次回予告

「推理対決が、手詰まりになってきたぜ。」

「どうにかして、自然の真実を打ち破らないとな。」

「自然の真実なんて、全然ダメだにしてやるぜ。」

次回 spare me Magic - 4 long castle
ing victory

「この推理の戦いにも、終止符を打ちたいけど打てない。」

「俺の自然の真実は、致命的に攻めることが出来る。」

s p a r e m e M a g i c 3 q u i c k b i s h o p (後書き)

次回もまた見てね！

第七の晩から第八の晩と第九から第十一の晩の作戦会議が中心の軸
になっています。

トウダイグサは、タカトウダイとナツトウダイと一緒にいた。

「50分まで、あと8分だ。もう少し会話でもするか？」

「まあ、もう少しこれより前の世界を見聞するか。」

カドルス達は、23名となった為、次第に警戒力が強くなり始めた。

フレイキーは、フリッピーと一緒にいた。

フリッピーは、みんなを守る為に、自らの家にあったマシンガンを所持してきてよかったと安堵の顔を示していた。

ブディストモンキーは、ラミーと話し合っていた。

みんなにとって、犯人は、神か魔女のどちらかと語った。

タカトウダイとナツトウダイは、屋敷の外にいた。

「ほんのわずかなことでも、俺達の正体がばれる。心してかかるか？」

「了解、タカトウダイ。」

レインボーニヨロモとキリマンジャロに気がつかないように膝と足に杭を刺してさらに溺殺させた。

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

生き残っているのは、カドルス、ギグルス、トウーシー、ランピー、フリッピー、ディスコベアー、ペチュニア、スプレンドイド、フレイキー、マイム、リフティ、シフティ、ラッセル、ブディストモンキー、ルドルス、アリス、ホンコン、ラミー、シャーベルタイガー、戦人、シャンハイとなっている。

ルドルスとカドルスとランピーとディスコベアーとシャーベルタイガーと戦人とラッセルは、1階ゲストルームにいた。

トウーシーとペチュニアとアリスとギグルスは、3階客室東方側に別々にいた。

リフティとシフティとホンコンとマイムとブディストモンキーとスプレنديッドとフリッピーとフレイキーは、食堂にいた。

シャンハイ、ホンコン、ラミーは薔薇庭園にいた。

ゲーム盤の外では、戦人が反撃の一手を加えようと考えていた。

「トウダイグサに復唱要求、この屋敷の周辺には、33人以上存在する。」

「戦人、ちょっと待て、33人以上といったな。」

「ああ、さっさと復唱して見せるよ。」

「自然の真実、屋敷の周辺に33人以上の人物は存在しない。」

「だとしても、屋敷の外から入ることはできる。」

「自然の真実、屋敷の外からの侵入には鍵穴を器用にピッキングしないと入れない。つまり完全に施錠されている。屋敷にあるキーボ

ツクスに屋敷の門を開ける鍵がある。」

ベアトリーチェも攻撃を開始した。

「ただし、裏庭の門には、カギがない為、自由に行き往きできる。」

「赤で語るとは、自然の真実、裏庭から外へ出ると沼地があり、泥まみれになって、庭の中に入らなければならない。」

「裏庭にある小さい小屋は、シャワールームつまり・・・」

「自然の真実、小さい小屋は、倉庫であり、シャワールームである。裏庭からどんな方法でも侵入は不可能。」

戦人とベアトリーチェは、再び凍りついた。

ゲーム盤の内部では、トウダイグサが第九の晩〜第十一の晩の作戦会議を行っていた。

「トウダイグサ様、私とヤマヒナツとリュウキュウタイゲキの3人で儀式をすることを提案します。」

「そうか、ナットウダイ。ならそれでいいと思うか思わないかを協議を行う。」

みんなは、賛成をした。

「賛成多数、協議可決。」

ナットウダイ、ヤマヒナツ、リュウキュウタイゲキ以外の者は、黄金の蝶になって消えた。

トウーシーは、嫌な予感がしていた。

一方、薔薇庭園では、ラミーとシャンハイが一緒にいた。

その時、ヤマヒナツとリュウキュウタイゲキが襲い掛かってきた。

そしてやってきたホンコンは、ナットウダイに絞殺された。

悲鳴を聞いてやって来たカドルス達は、驚いていた。

生き残り者達にとって、苦しい気持であった。

ギグルスとカドルスとトゥーシーと戦人は、3階客室にいた。

スプレنديドは、食堂にいた。

そしてそれ以外な者達は、2階のゲストルームにいた。

「第九の晩から第十一の晩まで終了してしまった。残すは、第十二の晩だけか。」

「まだこれだけ残っているんだ。」

「暗い言葉を吐かないでくれリフティ。」

「すまん、シフティよ。」

スプレنديドは、お茶を飲もうしていたが、ケーキを取りに行った。

其処に、ヤンバルアカメガシワが入り込んだ。

「お茶の中に、毒を入れてしまつか、クッククク。」

毒を入れ終わった後、嘲笑いをこらえながら黄金の蔦になって消えた。

スプレンドイドは、毒の入ったお茶を平然とした顔で飲んでしまった。

「クリプトナッツが入ってる……ドサツ」

スプレンドイドは、毒殺されてしまった。

次回予告

「ハッピーツリーフレンズ解質問コーナー」

「今日は、ペンネームハピツリ解大好きさんから、トウダイグサとナツトウダイってどれくらい生きているんですか？もしかして100年位生きているジジイとババアじゃないんですか？」

「ジジイとババアですか？失敬な方ですね。」

次回 spare me Magic - 5 chessman b
ulying

「ナットウダイは、植物年齢18歳。」

「私は、植物年齢21歳でございます。」

次回もまた見てね。というよりこの物語の次は、Chore Lo
ser Magicになります。そしてトウダイグサ率いるトウダ
イグサ科に新キャラが登場とハピツリ解に、オリジナルハピツリキ
ヤラ、ラック、ショプー、フカサワ。うみねことから、ジェシカ、讓
治、カノン、シャノンが登場。さらなるハピツリ解の展開に注目し
ていただきたい。

s p a r e m e M a g i c - 5 c h e s s m a n b u l l y i n g (前

ハピツリ側の行動が軸となっています。そして第十二の晩の名称が変わってしまう。

第十二の晩の序章まで終わったこの物語。

はたして、此処からどんな惨劇が待ち受けるのか？

カドルスは、生き残りの人数を数えていた。

「カドルス、ギグルス、トウーシー、ランピー、フリッピー、デイスコベアー、ペチュニア、フレイキー、マイム、リフティ、シフティ、ラッセル、ブディストモンキー、ルドルス、アリス、シャーベルタイガー、戦人ということは、18人か。ちょっと待て、スプレンドイドがいないぞ！」

マイムとリフティとシフティとラッセルとギグルスが食堂へやってきた。

ギグルスが、スプレンドイドを見つけた。

「この死に方、クリプトナッツが原因だな。」

リフティとシフティが死因を語った。

ゲーム盤の外では、セルインジー・キリストと卒陀は、戦人の反撃を期待していた。

「自然の真実、第十二の晩に、自然の魔力が蘇り、誰も生き残れはしない。」

戦人がさらに焦った表情をした。

「ちょっと待て、第十二の晩は、違はずじゃ・・・」

「自然の真実、我々には、一つの案が成立しない限り、行動は一切できない。」

「真実の語りが早すぎる。大体、スプレندیドはクリプトナッツという物質で自殺した。」

トウダイグサは、自然の赤の真実で否定した。

「スプレندیドは、自殺していない。毒殺である。」

戦人は、困ってしまった。

ゲーム盤内では、ブディストモンキーとルドルスとトゥーシーとアリスに近づいた黄金の鳶がいた。

「誰か来る！」

ヤマヒナツとリュウキュウタイゲキとグミモドキが姿を現した。

「ブディストモンキーというやつ、私達のソンザイニキガツイテイタミタイダルヤマツヒナツツ。」

「ちょっと怖いわよヤマヒナツ。」

「ごめん、ヒナツツ。」

ブディストモンキー達は逃げた。

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ルドルスは、ヤマヒナツに捕まってしまった。

「私と遊んでくれますか？くれないならヤマヒナツしてあげるわ。」

ルドルスは、もがきまくった。

そしてルドルスの心臓に剣が貫いた。

「もがきまくるから、そうなるのよバーカナッツ！」

アリスは、グミモドキとにらみ合っていた。

「あんたは、馬鹿よ。私にその杭が刺さるわけがない。」

「だったら、刺してあげるわ。殺戮ポジションが整ったわ。」

グミモドキは、アリスの胸に杭を突き刺した。

ブディストモンキーとトゥーシーは、リュウキュウタイゲキと対決

した。

「ふん、全て読みつくした。」

リュウキュウタイゲキは、トゥーシーの顔を粉碎した後、ブデイス
トモンキーの腹を粉碎したと同時に左腕ももげた。

トウダイグサは、とんでもないプランを作り上げていた薔薇庭園に
奇妙な戦車が現れた。

「ターゲット、フリッピーとラッセルとリフティとシフティとディ
スコベアーとフレイキーだ。ぶっ放せ！」

ドガンという大きな音が屋敷をぶっ壊すように弾丸をぶちこんだ。

その時、6人の胸から大量の血を噴き出して死んでいった。

生き残りは、カドルスとギグルスとランピーとペチュニアとマイ
ムとシャーベルタイガーと戦人となった。

「ランピーが犯人だ！」

「なんでぼくが？」

ペチュニアが突然そんなことを言った。

次回予告

「ギグルスよ。このお話もいよいよクライマックス。」

「ペチュニアは、ランピー犯人説を言ったけどどんなことなんだろう？」

「分からないけどなんだかやばいね。」

次回 spare me Magic 6 devil plan
t mate

「ランピーは、犯人じゃないの？」

「ペチュニアちゃん落ち着いてよ！」

s p a r e m e M a g i c - 5 c h e s s m a n b u l l y i n g (後

次回もまた見てね。 次回作、 chore loser Mag
ic も楽しみに。

時が敗北に、しかし少しだけ分かった部分もある。

「ランピーが、犯人だ!」

ペチュニアが突然そんな風に言った。

カドルスと戦人は、ペチュニアから事情を聞いた。

「私は、ランピーがトイレに行つてくると言つて納得していたけどあまりにもトイレの時間が長いから何かやらかしていると思つたらこの様よ!」

ランピーは反論した。

「ペチュニアちゃん、トイレが長かったのは、トイレをし終わった後、顔を洗つてそして、外の空気を吸いに行つてたんだよ。本当だよこれは僕にはアリバイがある。」

ギグルスとシャーベルタイガーと戦人とカドルスは、納得していた。

マイムとペチュニアは、相変わらずランピーのアリバイの嘘を突こうと考えていた。

黄金の魔術師トウダイグサが、ペチュニアとマイムのところにやってきた。

「この二人は、俺の餌食になれ。」

マイムが「パントマイム」で矢を作り、トウダイグサに浴びせようとした。

しかし、トウダイグサはバリアを張った。

4人は、トウダイグサに見つかった。

「全員皆殺しだー！」

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ペチュニアは、必死に逃げていた。

「私があの人を選んでしまった。」

ペチュニアは、その声に戸惑い、タカトウダイの弓矢がペチュニアの胸と額を矢で射抜いてペチュニアは殺された。

今回起こった出来事を整理すると新たな謎が出てくる。

ペチュニアが逃げようとした時、ある謎の人物の悔みの言葉が最大の謎となってしまった。

植物側の目的もいまだに謎のままである。

トウダイグサが、なぜ黄金の魔術師なのかもまだ謎である。

そして、家具達の行動からチェックメイトしてしまったカドルス達にリベンジが始まる。

植物側の会議談

「さあ、次のゲームの家具達よ。集まるがいい。」

「メルクルアリス・ペレンニスです。」

「セイシボクです。」

「キャットテイルです。」

「ギンリユウです。」

「コニシキソウです。」

「ユーフォルビア・テトラゴナです。」

次のゲームで、一気にカドルスと戦人達を屈服させてやる。

次回予告

「やっと僕の出番だ。」

「ラッセルとマイムの過去の話から何か読みとれるといいな。」

「トウダイグサ率いる植物側は、何を企んでいるんだろうか？」

次回 chore loser
memory chessman
Magic - 1 old m

「マームは、昔しゃべれるのかな？」

「それは、次回のお楽しみに！」

s p a r e m e M a g i c 6 d e v i l p l a n t m a t e (後 書

次回も見てね！

chore

loser

magic

1

old

memory

cho

新たなストーリー展開！

マイムが4歳のころ、父親と一緒にサーカスの特訓を受けていた。

「お前は、器用にできると思ったら大間違いだぞ!」

マイムの父は、マイムをしつこく殴りまくった。

マイムは、憎悪感が直々に出てきた。

「僕は、お父さんよりうまくなりたいという気持ちがあるんだ!」

「そんなことを言う喉を潰して喋れなくしてやる!」

マイムは、過剰な虐待のせいで「パントマイム」という魔法大系を持った。

マイムは、父親をパントマイムで作ったガソリタンクでガソリンをまき、火を付けた。

マイムは必死に逃げた。

それから時間は長く経ち、ポップとカブは楽しく変わりばんこに庭の掃除をしたため、運命は再び購われた。

植物側が引き継いだ「エクストラゲーム特別拷問」を開始した。

今回からの新しい駒は、朱土香、譲治、紗音、嘉音、フカサワ、シヨブー、ラックの7人である。

更に、今回もいる駒は、31人。

支配人が一人だけとなった。

フロッグマンというものである。

フレイキーは、フリッピーとラブラブな感じであった。

深夜1時になり、そこからメルクルアリス・ペレンニス、セイシボク、キャットテイルが、現れた。

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

朝の7時25分になり、6人の姿がないことに気づく、トウーシーとギグルスがバラ庭園で死んでいた。

ゲーム盤の外では……

戦人とカドルスは、セルインジー・キリストと牟陀に問いかけたが、セルインジー・キリスト達は、いなかった。そこにいたのはトウダイグサであった。

ゲーム盤内では……

ポップとカブは、1階客室の東方部で死んでいた。

パチュニアとフリッピーは、3階客室の西方部で死んでいた。

33名だけになった。

謎の暗号は、食堂に現れていた。

ランピーが読みあげた。

「009、004」

これは、何を現しているのだろうか？

そして、食堂は施錠されていた。

フロッグマンが鍵を取りに行った。

次回予告

「なんか、まずいようなこのまんじゅう？」

「って次回予告どうしよう適当に言っ？」

「面倒だから言わないほうがいいよ。」

次回 c h o r e l o s e r m a g i c - 2 m o c
k b i s h o p m i n d

「その結果、新たな惨劇が来るであろっ。」

「君は一体誰？」

chore

loser

magic 1

old

memory

cho

次回もまた見てね。

イ

chore

loser

magic

2

mock

bishop

mi

「009、004。」

この謎の暗号は、すぐに解けた。

なぜなら、椅子の座るところに004と009と血で書かれていた。

ゲーム盤の外では……

「トウーシーの殺害構築から始めるぞ。トウダイグサ！」

「やってみろ、自然の真実で弾いてやる。」

「トウーシーは、バラ庭園を迷路のようにさ迷っていた途端、ギグルスと衝突してしまい、柵の針に刺さってしまい死亡した。つまりこれは、事故死だ！」

「自然の真実、トウーシーとギグルスは、事故死ではなく、殺人である。」

「だったら、ポップとカブは毒殺と言うことか？」

「ああ、そしてペチユニアとフリッピーは同じことで死亡した。」

「殺人が2人、毒殺が4人か。」

ゲーム盤内では……

33名のメンバーは、できるだけ一点に集まった。

戦人は、譲治にあることを話した。

「もし、この世界の屋敷は六軒島と密接なかかわりがないのなら、このような惨劇の謎をどう解明したらいいんだろうか？」

「戦人君の言うとおりだね。確かにこの屋敷と六軒島はかかわりがないと言い切れる。惨劇の謎を解くには情報不足だっていうことになる。」

ゲーム盤の外では……

「六軒島の惨劇とあの屋敷の惨劇では、事件性が違う。俺の青き真実で通しやすいということだ。あの島には、33名のうちの一人が犯人であり、その犯人は屋敷の中身を知っている人物でなければ被害や色々なことができない。」

トウダイグサは、啞然とした顔をした。

「どうした俺の手の入れ方が恐かったか？」

「馬鹿だな戦人。自然の真実33名は全員屋敷に入るのがこれが初めてである。」

「くそ。」

ベアトリーチェも一手を加えた。

「外からの侵入が可能である。」

こちらにも自然の真実によって弾かれた。

「外からの侵入は完全に不可能の状態となっている。なぜなら裏庭と庭の扉は、頭脳明晰な奴でないとピッキングができない鍵穴があるからである。」

「妾の一手も弾きやがった。」

ゲーム盤内では……

ペキンとシャンハイは、ちよつと2階ゲストルームで一服していた。そこにセイシボクがあらわれ大きな鉈でペキンとシャンハイを襲った。

顔面がなくなるまで切り刻んだ。

楼座と真里亜は、バラ庭園で飾っても枯れずに長持ちしそうなバラを探していた。

楼座は、少しだけ用を済ませてからバラ庭園に戻ることにした。その間、真里亜は、バラを探していた。

その時、真里亜の腹を蹴った人物がいた。

ギンリュウである。トウダイグサ科の者だ。

バラの片隅で隠れて待ち伏せをしていたのである。

「植物の姿でいるのも、楽なんだが、人間の姿は、楽じゃないんでね。」

真里亜は、腹をけられたショックで吐血をしてしまった。

ギンリユウは、バラを見て軽蔑的な発言をした。

「薔薇か、トウダイグサ科こそ最高で美しいパワーを持っている。こんなバラはあまりにもブサイクすぎる。」

冷静と言う魔法で、バラを潰しまついているギンリユウを見ている真里亜は、立ち上がれずにいた。

「バラを・・・壊さ・・・ないで。」

その言葉を聞いたギンリユウは、千虎と言う魔法で額に杭を刺した後、黄金の蔦となって消えた。

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

朱土香は、突然叫び声をあげた。

それは、シャンハイとペキンが、顔面を無茶苦茶にされて殺されているのである。

そして、楼座は真里亜のことが心配になり、バラ庭園に行くと真里亜の額に杭が刺さって死んでいるを見た。

楼座は、腰が抜けてしまった。

カドルスとランピーとフレイキーは、3人が無残な殺され方をしているのを見て、悲しい気持ちになっていた。

ラミーは、残酷な殺され方をしている者を見たくない。

そのため、地下1階で何かを探している途端、トウダイグサがあらわれた。

「私を殺すつもりなの？」

「そうだ。この下には行くことはできない。」

次回予告

「この先は、とても遠いね。」

「でもね、惨劇の謎を一刻も早く解かないとまずいんだよ。」

「真実を見たいけど、まだまだ先なんだよ。」

次回 ch o r e l o s e r m a g i c - 3 k n i g h t
t r u e m o v e

「僕の名前は、コニシキソウです。チェスで言うナイトに属します。」

「お前は、そういう名前か？」

c h o r e

l o s e r

m a g i c

2

m o o k

b i s h o p

m i

次回もまた見てね。

c h o r e

l o s e r

M a g i c

3

k n i g h t

t r u e

m

第四の晩から第六の晩までです。

「私を殺すつもりなの？」

ラミーがそういつとトウダイグサは言った。

「そうだ。この下に行かせるわけにはいかない。」

トウダイグサは、自然の魔法でラミーの首に杭を刺して殺害をした。

トウダイグサが、黄金の蔦になるとラミーを包んで2階東方部客室の第三部屋にラミーの遺体を置いた。

ラミーの遺体を見つけたのは、ラックとラッセルであった。

戦人とカドルスは、今までなかった謎の封筒を見つけた。

封筒の中身は、文章と一つの植物があった。

コニシキソウの葉っぱが封筒の中にあった。

朱土香は、その葉っぱに見覚えがあると言った。

文章をカドルスが読みあげた。

「たびたびの殺人事件により、この屋敷の危険性が強まっています。私、コニシキソウは次の生贄を選んでいます。どうか生贄に選ばれた方は、私を怨まないでください。そしてその葉っぱの裏に生贄の人物の文字が入っています。」

戦人は、コニシキソウの葉の裏を見た。

「次の生贄は、ルドルス。」

カドルスは、弟のことを心配し始めた。

ルドルスは、一人で裏庭の小さな屋敷に入った。

「ここには、銃がある。でもあまり使われていないようだし、壊れてそうだな。」

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ルドルスは、奥に進んだ。

奥にはなぜかコニシキソウが生えていた。

「なんでこの場所にコニシキソウが生えているのだ？」

しかし、その疑問が胸に杭が刺さるまで気付かなかった。

ルドルスは、胸を押さえた。

「お前、まさか！」

コニシキソウが人間の姿になった。

「自然の魔力の復活のために、貴方達を私が殺します。」

ルドルスは闇に落ちて行った。

ユーフォルビア・テトラゴナは、すでに譲治を殺害していた。

譲治の腹には、杭が刺さっていた。

「ふんっ、勝手な行動で私を怒らせやがって。」

次回予告

「今回は、推理が全般的になるよ。」

「これまでとは違った楽しみ方もしたほうがいいね。」

「そんな中、第七の晩が発生する。」

「どうなるのかな？今後の展望。」

次回 chore loser magical
direct square rook d

「さて、次回に期待だ！」

chore loser magic-4 rook direct s

推理を軸にしていきます。第七の晩から第九の晩まで起こります。

ユーフォルビア・テトラゴナは、譲治を殺害していた。

「ふんっ、勝手な行動で私を怒らせやがって！」

そこに転がっていたのは、斧だった。

ゲーム盤の外では……

「譲治の殺され方に疑問が残っているのはどうしてだ？自然の真実で明かしてくれ。」

「よかろう、自然の真実、譲治とユーフォルビア・テトラゴナは、争い始めてから数分もたたずに譲治の不意を突いたユーフォルビア・テトラゴナが殺害をした。そして腹に杭が刺さっている。」

カドルスは、青き真実でもう一つのことを提唱した。

「ラミーの殺害は、あの部屋の中で殺された。そしてそれにより飛び散った血はきれいにふき取った。」

「自然の真実、ラミーは、あの部屋では殺害されてはいない。」

「だったら、これはどうだ。封筒の中に入っている楕円形で真中に赤紫の斑点がある植物は、一体何なんだ？今回のゲームに関係があったのか？」

「戦人、面白いところを突いたな、自然の真実、コニシキソウと言

う植物は吾の手先であり、仲間でもある。そして、戦人が言った葉っぱの正体がコニシキソウだ！」

ゲーム盤の中では……

ルドルス of 遺体を裏庭の倉庫みたいな場所に戦人達が入った。

カドルスが一瞬にして涙をこらえようとしていた。

ルドルスが胸に杭を刺されて死んでいるのをみんなは見ってしまった。

朱士香は、また新たな封筒らしきものを見つけた。

「また封筒だぜ。」

フレイキーが封筒の中身を取り出した。

「うっ……これは指？」

突然、指が封筒の中から取り出せた。

戦人は、譲治の身に何かが起こったと考えた。

封筒には、それしか入ってなかった。

アリスと朱士香とラッセルは、1階ゲストルームで待機することを決めた。

他のみんなは、譲治の遺体を見つけた。

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ラッセルは、ゲストルームから出た。

ギンリユウがあとからついてきた。

その間、アリスと朱士香は、トウダイグサに襲われていた。

ラッセルが来るとアリスと朱士香の膝と足に杭が刺さっていた。

ラッセルは後ろ振り向くと左手首に杭が刺さった後、首を殺がれた。

次回予告

「こんなことになるなら、次のことだ。」

「どうしたの?」

「色々と試したけど、この紙はすぐに破けちゃうよ。」

「元から水にぬれて使い物にならないだけだよ。」

「あつ、そうだった。」

次回 chore loser magical 5 ignore
queen

「ことごとく外しすぎたら、紙がつかいものにならなくなったよ。」

「だからいわんこっちゃんない。」

**c
h
o
r
e**

**l
o
s
e
r**

**m
a
g
i
c
-
4**

**r
o
o
k**

**d
i
r
e
c
t**

s

次回もまた見てね。

chore

loser

magics

ignore

que

第十の晩と第十二の晩の序盤までとなります。

カドルス達は、ゲストルームで三人の遺体を発見して驚いていた。

「何だよ、いきなり3人の遺体とご対面なんて・・・」

今、生き残っている人物は、カドルス、ランピー、ディスコベアー、ハンディー、ナッティ、スプレンドイド、スニフルズ、フレイキー、マイム、リフティ、シフティ、モール、ブディストモンキー、ルイ、フカサワ、ショプー、戦人、紗音、嘉音、楼座、フロッグマンとなっていた。

嘉音と紗音は、別部屋にいた。

しかし、何者かが近づいてくることにはつきりと気がついた。

この異様な空気は、フロッグマンを襲った。

そしてその次に、ルイを襲い始めた。

ゲーム盤の外では・・・

「残った人数は、19名となっている。ルイとフロッグマンは、殺されてどちらにも右手首に杭が刺さっていた。」

「トウダイグサに復唱要求、此の二人の死と40人目説はどうだ。」

「復唱を拒否する。ただし一つ言えることがある。自然の真実、屋敷敷地内には40人以上の人物はいない。」

「どういうことだか、分かったぞ。」

「どうしたの戦人？」

「カドルスは、まだわからないと思うがこういうことだろう。何者のか二人を殺したしたら屋敷敷地内には、複数犯がいるということだ！」

「自然の真実、ルイとフロッグマンの殺害には屋敷内の誰一人も関与していない。」

戦人は、衝撃を受けた。

「こんなことつてありかよ！なら、その根拠を復唱してみろ！屋敷外からの侵入が容易い者でしか此の殺人事件を起こせない。」

トウダイグサは、にやりとした。

「いいさ、だが復唱の反論を述べてやる。」

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

「復唱の反論？」

「自然の真実、屋敷外からの侵入は完全不可能とずっと前に述べている。」

「しまった。そうだった！」

「自然の真実は、真実と否定と驚愕しか述べれないからな。」

ゲーム盤の内では……

ルイとフロッグマンの死を見たランピーがあることを言った。

「これで第十一の晩までが終了してしまった。」

フレイキーは、怯えていた。

ブディストモンキーとスプレنديドは、ルイとフロッグマンの死体を見ていた。

「自分も、この屋敷から出ない限り殺されてしまうのか。」

一方、バラ庭園で真里亜がいた迷路みたいな場所に楼座と嘉音とナツティーがいた。

そこには、ユーフォルビア・テトラゴナとメルクルアリス・ペレンニスとコニシキソウがいた。

「此の三人は、我々が狩る！」

しばらく経ってもナツティー達が来ないので心配になったみんなはバラ庭園へ移動した。

次回予告

「若干、難しくなってきたな。」

「謎が多い今回のお話は。」

次回 chore loser magic - 6 bishop

natural plate

chore

loser

magics

ignore

que

次回は、第十二の晩の中盤と推理が入り雑じります。

chore loser magic - 6 bishop natural

第十二の晩と推理が軸になります。

「ナツティー達来ないね。」

ディスコベアがそういうとみんなは恐怖心に包まれていた。

みんなは、バラ庭園のあたりをかなりの分担数に分かれて、搜索した。

「どうなってんだ！血の跡がバラ庭園を囲んでいる！！」

ブディストモンキーと戦人とフカサワは、驚愕の血で描かれたミステリーサークルを見つけた。

ゲーム盤の外では……

「トウダイグサ、これはどういうことだ？普通死体を引きずったりすると皮膚とかがたまにはがれている奴を見つけるがそれが何一つもないというのは、明らかに変だぞ！それにあれだけの大きさのバラ庭園を囲むような円はまずあり得ない。」

「自然の真実、大きな円はナツティーの血で描いた。」

「そんなバカな！だったらなぜナツティー達の遺体がないんだ？」

「そんな単純な答えは、言わない。」

ゲーム盤の中では……

シヨプーとモールとマイムは、3人の遺体を裏庭で確認した。

これで生き残りは、カドルス、ランピー、ディスコベアー、ハンデ
イー、スプレندیッド、スニフルツズ、フレイキー、マイム、リフ
ティ、シフティ、モール、ブディストモンキー、フカサワ、シヨプ
ー、紗音、戦人である。

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ディスコベアーとスプレندیッドと紗音とリフティとシフティとマ
イムとモールとスニフルツズは、2階東方客室第5の部屋に入った。

しかしそこに待っていたのは、トウダイグサであった。

「君達を死に誘う準備は整った。」

マイムは、パントマイムで作った武器でトウダイグサに攻撃したが、
バリアが貼られていたせいで弾かれてしまった。

トウダイグサは、その場から消えた。

「消えたわ。」

その時、大爆発が起こった。

他のみんなは、びっくりして駆けつけた。

「なんだ、この砂埃は……」

砂埃が治まった時、みんなは、シフティの下半身を見つけ、ショックを受けた。

此の大爆発で、8人が爆死してしまったのである。

生き残っているのは、カドルス、ランピー、ハンディー、フレイキ
ー、ブディストモンキー、フカサワ、ショプー、戦人となった。

「此の8人で、事件を解決してやる。」

フカサワは、戦人の言った言葉に自分が誰だったのかの記憶を取り戻そうとしていた。

次回	chor	loser	magic-7	regre
t	check	mate		

chore loser

magic - 6

bishop

natural

次回もまた見てね。

chore loser magic - 7

regret check m

次のストーリーに変動します。

フカサワは、悩んだあげく屋上に上った。

残りの7人は、3人と2人の2つにわかれた。

カドルスとランピーとフレイキーは、恐怖ながらも裏庭に出た。

ハンディーとブディストモンキーは、3階のゲストルームにいた。

シヨプーと戦人は、1階に止まっていた。

ここで、全てが終わった。

カドルスと戦人は、フカサワの正体を聞かされることになった。

「自然の真実、フカサワはかつてのある世界の欠片で活躍した者である。」

「どういうことだ・・・」

全ての謎は、裏お茶会で発表する。

フカサワは、屋上にいた時、この世界にも青く長い髪の毛の奇跡と残酷の魔女が現れた。

「貴方は、この世界にはいてはいけない存在。」

「どういうことなんだよ。それって？」

「深澤識彦、貴方の世界は1989年の東京のことよ。まだ解決していないのに逃げるわけ？」

「この世界でヒントを見つけるために足を踏み入れたんだ。それが悪いことなのかよ？」

「悪いとは一言も言っていないわ。でも、この世界に本当の奇跡を与えたいだけなのだからあなたが邪魔になる。」

「分かった。じゃーお前はどつするんだよ。」

「私は、ここではベリカとして名乗るわ。」

ove 次回 in a jam magic-1 shadow m

chore loser magic-7 regret check m

i n a j a m m a g i c - 1 s h a d o w m o v e (前 書 き)

最初は、今までとは違った要素が試されています。

このままでは、この世界のミステリーが先に行けない。

フレイキーとフリッピーは、路上で倒れている青色の猫を見つけた。

「君、大丈夫かい？」

「助かりました。おなかがぺこぺこで・・・」

「名前は、なんというのですか？」

「私は、ベリカ。」

フレイキーとフリッピー達は、謎の屋敷に再び誘われるようにやってきた。

ゲーム盤の外では・・・

「トウダイグサ、今度は俺たちが一気に攻めてゲームをクリアしてやる。」

トウダイグサは、新ルールを用意していた。

「今回からは、今までの殺害内容が撤回された新しい殺害内容になっている。」

「新しい殺害内容？」

戦人は、その部分に疑問を持った。

「この世界をもっと知っとく為の殺害内容だ。此の俺をチェックメイトさせてみる右代宮戦人！」

「いきなりだが、きつめの一手を入れてやる！」

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ゲーム盤の内では……

トウダイグサとタカトウダイとイズナツトウダイとコニシキソウとトウゴマとハツユキソウは、新たな策略に乗り出そうとしていた。

この日の夕方、其れは起きた。

「譲治と紗音、朱志香と嘉音、真里亜と楼座が行方不明になったのである。」

カドルスとラミーは、嫌な予感がしていた。

ブディストモンキーとスプレندیドとルイは、6人を探しに行った。

「畏だったらどうしよう?」

ハツユキソウが、ブディストモンキーとルイを襲った。

スプレンドイドは、恐怖を感じながらも歩いていた時、悲劇に巻き込まれた。

「この新たな惨劇に立ち向かうしかないのかも？」

ベリカは、そう思っていた。

次回 in a jam magic-2 free knight
ht

i n a j a m

m a g i c - 1

s h a d o w

m o v e (後書き)

次回もお楽しみに

フレイキーとフリッピーは、少しだけ分かってきたものがある。

「もしかして、譲治さんと真里亜ちゃんだけ無事っていうことって
ならないのかなあ？僕の推理なんだけど・・・」

フレイキーの心細い声から出た推理は的中していた。

4人は、殺害されており後から見つかったブディストモンキーとル
イとスプレنديドの死体で7人となった。

カドルスは、あることに気付く。

「もしかして、次はギグルスとハンディ！」

手紙にはカドルスにしか解けない暗号文で書かれていた。

夜になり、犯人捜しをし始めた。

「そんなこと、はったりだよカドルス！僕が次に殺されるなんてお
かしいだろ！」

「僕だって、最初は疑ったんだ。」

ギグルスとペチュニアとアリスは、スニフルツズに言ってきた。

「貴方も、容疑者のかまがかけられているのよ。」

「僕には、きちんとしたアリバイがあるんだよ。」

「それが信用できないのよ。この手紙ランピーさんが複製してくれたけど、どう見たってスニフルツ君がカドルスの作った暗号を丸暗記しているのよ。」

「違うよ。僕は興味を持っただけ書いてみようなんてそんなことは一切しないよ。それに複製したものを使うとは、それでは証拠にもならないよ。」

次の日の朝、戦人とリフティが見たのは口に手を押さえてしまう光景であった。

「何だよ・・・これは？」

ハッピーツリーフレンズ解

ハッピーツリーフレンズ解

ゲーム盤の外では・・・

「前回とは、あまり変わっていないぞ。」

トウダイグサが言った。

「今までの推理は、我々があまりにも出過ぎた。だからこの場所の地下に閉じ込められている真実を暴けというだけのことを何者かが真実を暴きたいがために、人殺しを始める。なんて愚かなことなんだろう？」

「てめえ、犯人像見させたら、ただじゃおかねえからな！」

ゲーム盤の内では……

ギグルスは、胸を引き裂かれ、足を切断と左目が抉られていた。

ハンディは、首が転がっていて、腹には鉋で斬りつけられた跡が残っていた。

フレイキーは、食堂の周りを見ていたら、真里亜が飛びついてきた。

「どうしたの？」

「突然、譲治とラッセルとアリスとマイムが歩いているところの床が外れたのー！ベアトリーチェのいたずらではないから怖いものうー。」

そして今度はルドルスところに手紙が入ってきた。

「ある仕掛けを仕掛けた犯人は、ルドルスである。」

と書かれているが本当なのだろうか？

in a jam magic 2 free knight (後書き)

次回 in a jam magic 3 killed m
y
s
t
e
r
y

i n a j a m m a g i c - 3 k i l l e d m y s t e r y (前 書)

最終回です。

ルドルスは、自分が犯人なんてということを考えていない。

「自分には、アリバイがあるんだよ。」

完全にそれが否定できるものがないなかった。

カドルス達は、ルドルスのところにいた。

ルドルスは、何かを思った瞬間、カドルス達は消えてしまった。

そうこれが史上最悪のバッドエンドであった。

ルドルスが生き残ったが、みんなは、ルドルスだけが死んだという。

此の事件のなぞの衝撃的な謎を追いかけるため、ルドルスは館を捜索していた。

この物語は、終わりを迎えたわけではない。

ただし、ただ一つの条件が残った。

セルインジー・キリストを閻幻想郷に戻すという最後の闘いが始まるうとしていた。

i n a j a m m a g i c - 3 k i l l e d m y s t e r y (後 書 き

次回からハッピーツリーフレンズ奮に変わります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0819k/>

ハッピーツリーフレンズ解

2011年1月26日18時42分発行